第５学年　特別活動（交通安全）　　　　　　　　　　　　　場所　５年１組教室

自転車に乗ることの危険性と安全

指導者　丸地　一矢

**１　単元の目標**

　　自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通法規を守って安全な乗車ができ

るようにする。

**２　新学習指導要領との関連**

　　資質・能力の三つの柱としての目標

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識及び技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
| 現在及び生涯にわたって事件や事故等から身を守り安全に行動する。 | 社会の一員として役割を果たすために必要となることを主体的に考えて行動できるようにする。 | 集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせながら主体的・対話的に学習に向かう。 |

**３　単元について**

2013年、兵庫県で５学年の児童が自転車事故の加害者になったという事例があった。本単元では５学年の児童に自転車に乗ることの危険性と責任について学習することで、より深く交通安全について理解させる。

**４　安全教育の視点に迫るための手だて**

自転車の安全について、中学生から習うことによって、13歳によって道路交通法の適用が変

わること、小学生でも交通事故加害者になり得ることを実感させる。

**５　指導計画（４時間）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | ○主な学習活動 | ◎指導上の留意点　■評価☆安全教育の視点に立った留意点 |
| １ | ○自転車シミュレーター教室を通して、自転車乗車時の注意点について実際に体験しながら学ぶ。 | ☆ゲストティーチャー（東京都教育庁）を招き、自転車シミュレーターを活用することで、実体験により安全に対する気付きを得られるようにする。■シミュレーターの体験を通して、安全な自転車の乗車に大切なことに気が付いている。 |
| ２(本時） | ◯資料の読み取りを通して、自転車による事故の悲惨さと自分と周囲の人生への影響について考える。◯中学生から中学校で習った交通安全について聞き、小学生と中学生で交通安全、自転車の乗り方が違うことについて知る。◯小学校５学年としてどのような自転車の乗り方をしていけばいいか話し合う。 | ◎自転車事故の事例を示し、その問題点や事故後に及ぶ周囲への影響について考えさせる。☆自転車に関する法令や、事故における罰則等に触れることにより、加害者になる危険性についても考えられるようにする。■問題点や加害事故の責任について考えたことを基に、安全な自転車の乗車に対する課題意識をもつことができる。 |
| ３ | ◯警察の方から実際に起こった交通事故や自動車側からの歩行者・自転車の見え方について聞く。 |  |
| ４ | ◯家族に伝えたい交通安全について考え、本、インターネット、インタビューなどを活用し、調べ学習を進める。◯調べた内容を標語にまとめ、学級内で意見交換をする。 | ◎交通安全協会等が発行しているパンフレットや、インターネット、新聞記事等を活用し、最新の正しい情報を調べさせる。■自転車の安全な利用・点検や整備について集めた情報や調査・体験を通して分かったことから、交通法規を守って安全な乗車をする方法を理解している。 |

**６　本時の展開 （２／４）**

**（１）ねらい**

・自転車が関係する交通事故例や中学生の交通ルールの知識を基に、問題点や加害事故の責任について考える。

・加害者にも被害者にもならない、安全な自転車の乗車に必要なことを話し合い、課題意識をもつ。

**（２）指導の実際**

|  |  |
| --- | --- |
| ○学習活動・予想される児童の反応 | ◎教科の留意点　■評価（評価方法）☆安全教育の視点に立った留意点 |
| ◯前時の学習を振り返り、本時のねらいを確認する。・突然飛び出してくる人が居るかもしれないので気を付けた。・運転している側から見えないところから車が来た。自転車の安全な乗り方について考えよう。◯資料の読み取りを通して、自転車による事故の悲惨さと自分と周囲の人生への影響について考える。　・子供なのに大変なことになってしまった。　・自転車に乗ることが少し怖くなった。◯中学生から中学校で習った交通安全について聞き、小学生と中学生で交通安全、自転車の乗り方が違うことについて知る。◯小学校５年生としてどのような自転車の乗り方をしていけばいいか話し合う。　・自動車に乗っているのと同じだと思う。　・知らないルールがないようにする。◯話し合った内容を全体で交流し、共通理解を図る。◯話合いと発表の内容を踏まえ、知らなかったことや周りの人に知ってほしいこと、さらに警察の人から詳しく聞きたいことを考え、用紙にまとめる。 | ☆自転車シミュレーターや普段の自転車乗車時にヒヤリ、ハッとした体験を発表させる。◎記事の書き出しを読ませ、その後の展開を予想させたあとに、実際の事故の状況や損害賠償額を提示し、事故により負う責任の重さと、自転車に乗ることで加害者にも成り得てしまうことに気付かせる。また、その際自分だけでなく家族や周囲の人々にも多大な影響が及ぶことを押さえる。☆平成20年の事例以降、道路交通法が改正されたことを知り、中学校ではどのような学習をしているのか、中学生から要点だけを聞き取る。☆班で話し合ったことをホワイトボードにまとめさせ、事故の課題を決める際の資料として活用させるとともに、これから気を付けていかなければならないことについて考えさせる。☆中学生が守っている交通ルールについて気を付けていこうとする意見も取り上げる。☆安全な自転車の乗車をするために、という大枠のテーマから外れないように助言する。■問題点や加害事故の責任について考えたことを基に、安全な自転車の乗車に対する課題意識をもつことができる。【思・判・表】（発言・ワークシート） |